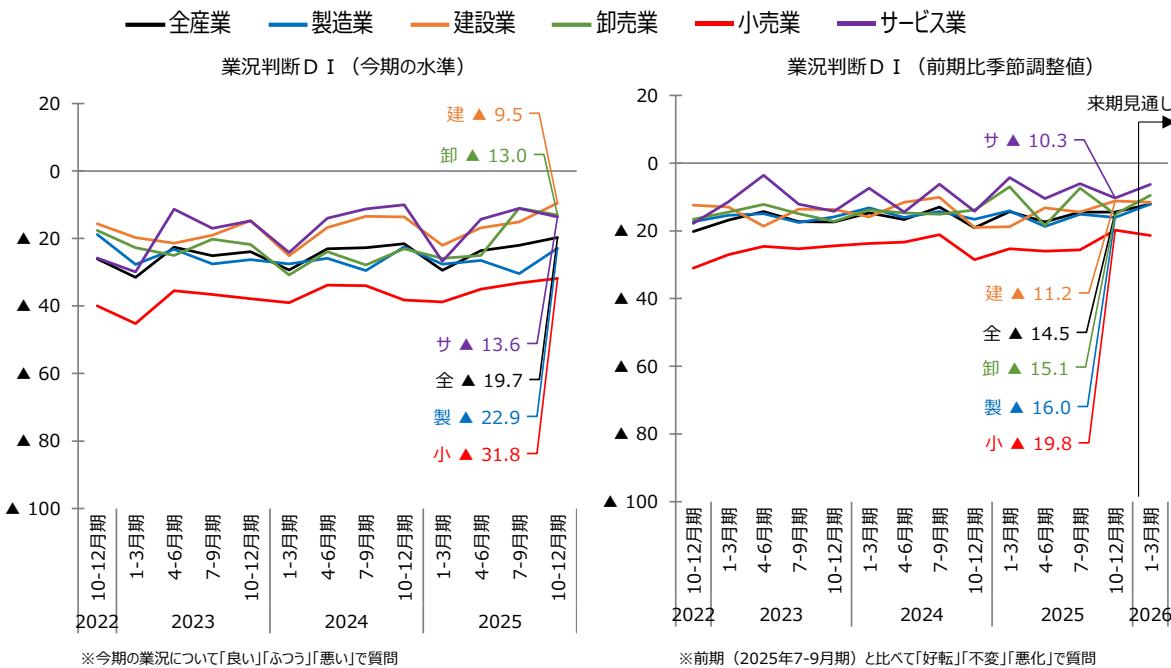


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期）中国

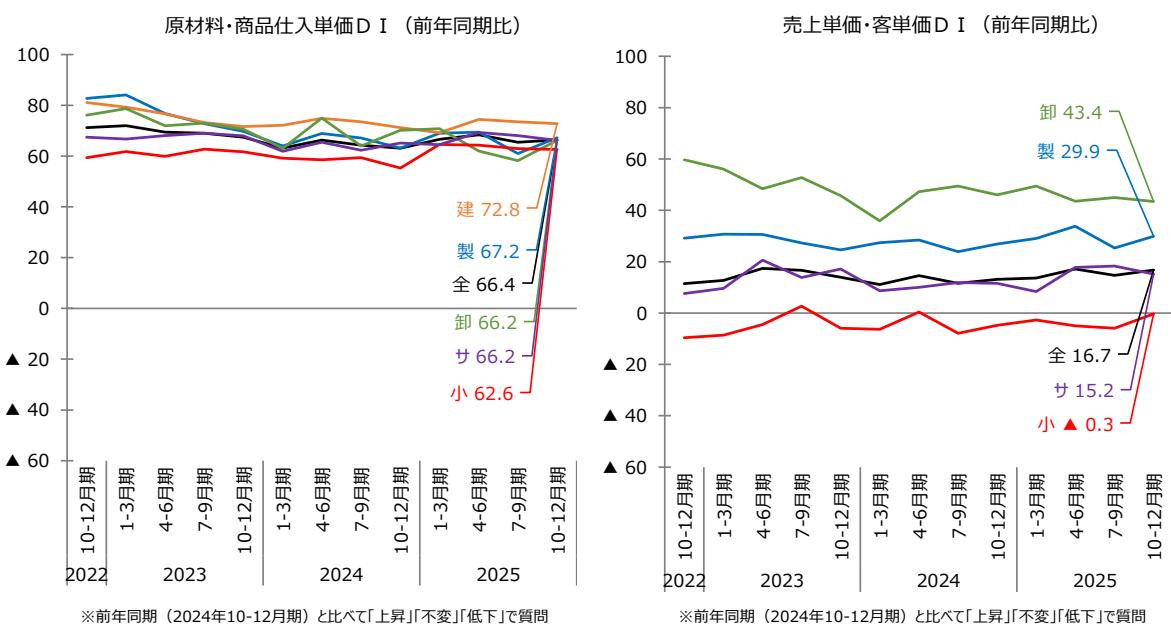
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より2.3ポイント増の▲19.7と3期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、小売業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.9ポイント増の66.4と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、建設業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント増の16.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、中国：1,638企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

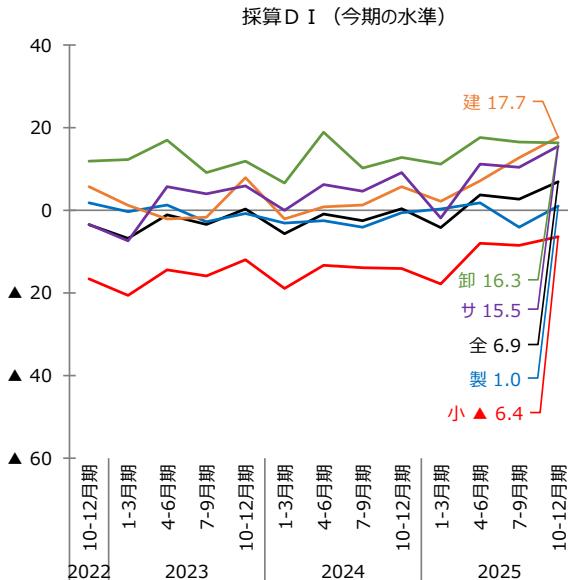
第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期）中国

3. 採算

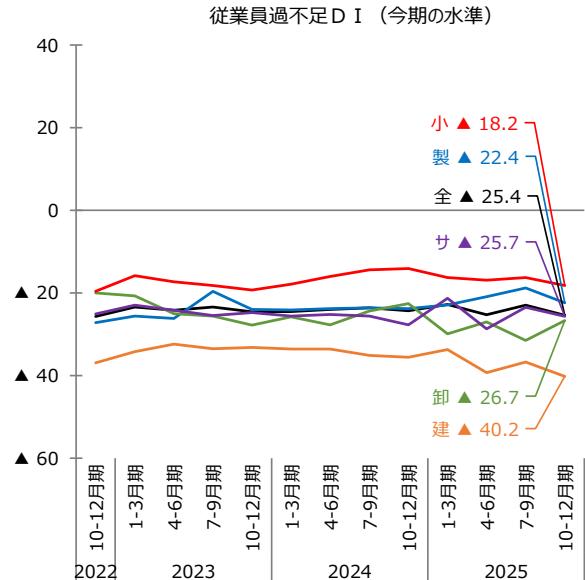
採算DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の6.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業、建設業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の▲25.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、建設業、サービス業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	発注品目および数量、新規引き合い、見積り依頼の減少。短納期による受注機会の消失と作業効率の悪化。	製造業	縫製機械製造業
	材料・人件費高騰により利益が残せない状況が続いている。木工事の方は、建築確認申請から工事に取り掛かるまで4～5ヶ月かかる状況である。そのため手待ち時間が増えた。	建設業	一般土木建築工事業
	天候異変の影響や、円安による海外からの原料の価格が高く、顧客の希望の価格での製造が出来ない。	卸売業	砂糖・味噌・しょう油卸売業
	気候も涼しくなり、紅葉日和も続いていることなどから売上が1.5倍に増えている。	小売業	菓子小売業（製造小売）
	11月よりメニューの価額の値上げを実施して売り上げは多少上向き。町商工会の商品券の実施で、その分売り上げが上がっている。	サービス業	日本料理店
見通し	状況は変わらず厳しさが長引いており、我慢の時期が続いている。2025年下期も現時点では厳しい見通しで、2026年上期に期待したいところはあるが、不透明である。	製造業	鉄道車両用部品製造業
	価格転嫁が比較的しやすい消費者からの直接受注を意識しているが、民間の需要自体が低調であり、B to Bの受注が中心になっている。その結果、思うように価格転嫁できず、来期は採算が悪化する見込みである。	建設業	塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	引き合いは低調だが、値上げにより売上高は減っていない。物価上昇に伴う需要減少傾向は続くと思われ、今後の見通しが難しい状況である。人手不足も引き続きの課題。	卸売業	酒類卸売業
	年末に向けて需要が増加する見込みであるが、冬場は雪の影響で、客数の減少やそもそも会場に行けないことがあるため、冬場に出店できる販売先を増やす必要がある。	小売業	他に分類されない飲食料品小売業
	短期的には好転しているものの、継続的に利益を出せる見通しではない。コスト削減も限界があるので単価交渉などのアプローチが必要。	サービス業	他に分類されないその他の生活関連サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)